

Topics ■トピックス [学内情報]

◎ 関西大学協賛の「大阪マラソン2026」開催

関大ランナーやボランティアなど約400人が大躍動



2月22日、今年で14回目を迎えた「大阪マラソン2026」(大阪府・大阪市・大阪陸上競技協会主催)が開催され、“みんなでかける虹。”のスローガンのもと、フルマラソンと720(なにわ)マラソンを合わせた約3万4,000人のランナーが早春の浪速路を駆け抜けた。

当日、ランナーたちは大阪府庁前をスタートし、道頓堀や京セラドーム、四天王寺など大阪の名所を経て、ゴールの大阪城公園を目指した。沿道には大勢の観衆が詰め掛け、熱いエールでランナーを鼓舞した。

関西大学は1回目からオフィシャルスポンサーとして大会運営に協力しており、今大会も多彩な活動で地元大阪を盛り上げた。オリジナルTシャツを着用した関大ランナー約40人が出場したほか、給水ボランティアとして学生ら約200人が参加。さらに、沿道には「ランナー盛上げ隊!」として約140人が集結し、本学の応援団や学生チーム「漢舞」(かんまゐ)、放送研究会(KBC)、関西大学カイザーズクラブチアダンススクールによる力強いパフォーマンスが大会に華を添えた。また、33km地点の給食所「まいどエイド」では、社会学部・劉雪雁教授ゼミの学生がたこ焼きなど大阪名物を提供し、ランナーにエネルギーを届けた。



20日、21日にはインテックス大阪で「大阪マラソンEXPO 2026」が開催され、本学ブースでは、経済学部・佐々木保幸教授ゼミの学生がプロデュースした「泉州タオル」の販売や、よさこい衣装の試着、応援団員と記念撮影ができる特設フォトブースを設置し、多くの来場者で賑わった。「Osaka ええやんステージ」では、Osaka Metro主催「ギネス世界記録™に挑戦! みんなで創る大阪マラソン応援モザイクアート」が世界記録(参加者数15,052人)の認定を受け、認定授与式が実施された。デザインを担当したマス・コミュニケーション学研究部の坂本理彩さんが登壇し、大阪マラソンやモザイクアートに込めた思いを語った。

◎ 第34回「関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞」授与式を挙

2025年度に活躍した関大アスリートの功績を称えて



▲受賞学生を代表して高橋智幸学長から賞状を授与される山口花音さん(左)

3月11日、千里山キャンパスにて、校友会の支援のもと第34回「関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞」授与式が執り行われた。本賞は、世界的に活躍したオリンピックであり関西大学卒業生の大島鎌吉氏の偉業を称え、1988年に創設された文化表彰制度で、本学のみならず日本におけるスポーツ文化の

振興及び推進に資することを目的としている。

個人の部では、FISUワールドユニバーシティゲームズの女子ダブルスと女子団体(日本代表)で優勝したテニス部の山口花音さん(経済学部4年次生)や、同大会女子ハーフマラソン団体(日本代表)で優勝した陸上競技部の前田彩花さん(商学部3年次生)ら計10人が受賞。団体の部では、弓道部、拳法部、テニス部、馬術部が受賞した。また、広く社会的なスポーツ文化の発展に貢献し、顕著な実績を残し、本学とかかわりを持つ団体及び個人として、本学アイススケート部OBでプロスケーターの高橋大輔氏に同賞が授与された。

◎ 第30回関西大学先端科学技術シンポジウムを開催

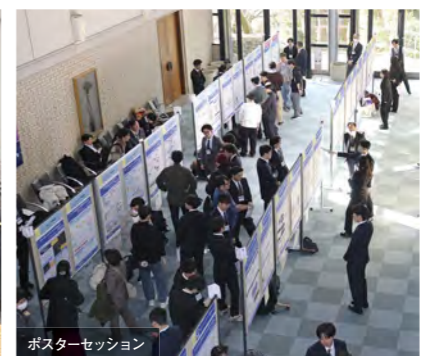
多彩な分野の最先端研究成果を披露



鶴田機構長のあいさつ



各研究プロジェクトによるセッションの様子



ポスターセッション

1月22日と23日、第30回関西大学先端科学技術シンポジウムを千里山キャンパスにて開催した。

本シンポジウムは、先端科学技術推進機構の研究員が取り組む多彩な研究成果を発表し、広く社会や企業、産業界との連携を図る学術交流イベント。今回のテーマは「“Beyond SDGs” Well-being 社会のための科学技術」。2019年にリチウムイオン電池の

研究でノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏による特別講演「2050年の世界をめざして」で開幕し、持続可能な社会に向けた科学技術の貢献について、四半世紀後の世界を見据えた提言がなされた。

各会場では2日間で15件のセッションと93件のポスターセッションが行われ、企業関係者と本学学生らが熱心に議論を展開。延べ1,315人以上の参加者を迎え、盛況のうちに幕を閉じた。